

スポーツ少年団活動の今後の在り方について（改訂版）

1964年の東京オリンピックに先がけてその2年前の1962年、「スポーツによる青少年の健全育成」を目的に創設されたのが日本スポーツ少年団です。2022年には60周年を迎え、創設から半世紀以上が経過して子どもたちを取り巻くスポーツ環境も大きく変化してきました。この機会に、本来スポーツ少年団が目指しているものは何かを原点に立ちもどりながら確認し、これからのスポーツ少年団活動の在り方を考えていきたいと思えます。

「スポーツ少年団改革フラン2022」

『ジュニア・ユース世代にスポーツの本質である自発的な運動の楽しさを提供しよう』

「改革フラン2022」が意図するスポーツ少年団の方向性

スポーツ少年団は、勝利至上主義を否定し、スポーツの本質である自発的な運動（遊び）から得られる「楽しさ」を享受できる機会をジュニア・ユース世代に提供する。

スポーツ少年団の理念

- ◆一人でも多くの青少年にスポーツの遊びを提供する
- ◆スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる
- ◆スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する（平成21年6月追加）

スポーツ少年団は**競技団体ではなく**、子どもたちの健全育成を目指す**青少年団体**です

スポーツ少年団活動は

主となるスポーツ活動のほか体カテスト（運動適性テストⅡ）、レクリエーション活動、野外活動、学習活動、文化活動、社会活動などが月間・年間を通して計画的に位置づけられていなければなりません。

スポーツ少年団の中心となる小学生にとって理想の団活動とは

- ①自主的・自発的で、かつ身体的・精神的に無理がなく、**意欲を持って参加できる活動**であること。
- ②平日は1日**2時間**程度、休日は1日**3時間**程度まで、1週間に**2、3回**が無理のない活動。
- ③WBGT**31℃以上**（熱中症予防運動指針「危険」）では特に子どもの場合は**活動を中止**すべき。
- ④単一種目のみを行うのではなく、**遊び**を取り入れた**多種多様な動き**のできる活動を行う。

皆さんの団は大丈夫ですか？

- ※ 勝利至上主義になっていませんか？ 勝ち負けが団の話題の中心になっていませんか？
- ※ スポーツのやりすぎによって心身に障害をおこしている団員はいませんか？
- ※ 小学生の活動で中学校の部活動より活動時間や活動日数が多くなっていませんか？
- ※ 猛暑の中で活動していませんか？ 熱中症になった団員はいませんか？
- ※ 主となるスポーツ活動のみで年間の活動が構成されていませんか？
- ※ 指導者、役員・スタッフ、育成母集団の過大な負担や犠牲のうえに団運営が成り立っていませんか？
- ※ 県・市町村本部が行う交流事業や育成事業に積極的に参加していますか？

★将来に向けたリーダーの育成★

スポーツ少年団は**生涯スポーツの入口**として、本来は中・高校生でも団員として登録ができる団体です。小学校卒業と同時に進んでいる事例が多い「**卒団式**」「**退団式**」は**やめたいものです**。中学校部活動の地域移行や若い指導者を育てるという意味からも**リーダー育成は重要な視点**です。